

小麦新奨励(認定)品種「タマイズミ」の特性

1. 試験のねらい

県内では小麦、六条大麦、ビール大麦が合計で約15,000ha作付されているが、その内、畑での作付は約1,000haである。畑で麦類を栽培するとタンパク質含有率が高くなり、品質が低下しやすい。そこで醤油用小麦に求められるのは高タンパク質含有率（13%以上）であるため、タンパク質含有率が高い小麦「タマイズミ」を奨励（認定）品種として採用し、畑作地帯および畑と同様にタンパク質含有率が高くなりやすい黒ボク土水田地帯での高タンパク化と安定生産を図る。

2. 試験の経過

「タマイズミ」は平成2年4月に農林水産省農業研究センター（現農業技術研究機構作物研究所）において、「関係W364」を母とし、「関係W361」を父として人工交配を行い、以後選抜固定を図ってきた系統で、平成14年9月に小麦農林155号として農林登録され、「タマイズミ」と命名された。

本県においては平成10年度に「関東123号」の系統名で配付を受け、奨励品種決定予備調査に供試し、平成14年度より奨励品種決定本調査および現地調査に供試して検討した結果、早生、短稈で、栽培性に優れ、タンパク質含有率が高く、醤油加工適性は農林61号より優り、有望と認められたので、平成14年11月に栃木県農産物奨励品種審査会において奨励（認定）品種に採用された。

3. 特性の概要

「タマイズミ」（組合せ：関係W364／関係W361）は「農林61号」と比較して、次のような特徴がある。（表）

- (1) 出穂期は3～4日、成熟期は1～5日早い早生種である。
- (2) 稈長は短く、穂長は同程度～やや長い。穂数は同程度～やや少ない。
- (3) 耐倒伏性は優る。
- (4) 収量性は水田ではやや劣るが畑では優る。
- (5) リットル重はやや重い。千粒重は重い。
- (6) 白粒で、粒の外観品質は同程度である。
- (7) タンパク質含有率はやや高い。
- (8) 赤かび病抵抗性は同程度の「中」で、穂発芽性はやや弱い「やや難」である（育成地調べ）。

4. 栽培上の留意点

緩効性肥料の施用や出穂期以降の追肥等、タンパク質含有率を高める栽培を行う。耐倒伏性は強いが、単純な基肥の多肥栽培は倒伏や品質低下を招く恐れがあるので避ける。また、農林61号より穂発芽に弱いので適期収穫に努める。

5. 成果の要約

畑作地帯での醤油用麦類の高品質化と安定生産を図るために農林61号よりも早生、短稈で、栽培性に優れ、タンパク質含有率が高い小麦新品種「タマイズミ」を選定し、奨励（認定）品種として採用された。

表-1 生育収量調査成績

品種名	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	穂長 cm	穂数本 /m ²	倒伏程度	子実重 kg/a	標準比 %	L重 g	千粒重 g	外観品質	タンパク質含有率 %
(場内水田)												
タマイズミ	4.23	6.11	86	8.3	531	0.0	41.8	97	813	41.6	2.0	—
農林61号	4.26	6.13	95	7.6	560	0.4	44.0	100	790	41.0	1.7	—
(場内畑)												
タマイズミ	4.17	6.15	95	9.8	506	0.5	71.6	120	834	44.1	3.0	12.2
農林61号	4.21	6.20	106	9.7	609	3.5	59.6	100	787	35.4	6.5	11.7
(現地畑)												
益子町												
タマイズミ	4.17	6.08	76	7.9	502	0.0	35.3	112	781	40.3	4.0	—
農林61号	4.20	6.09	82	7.5	473	0.0	31.7	100	752	39.1	2.0	—

注. 倒伏および病害の発生程度は、無(0)～甚(5)の6段階評価。

外観品質は、1(上上)～9(下下)の9段階評価。東京食糧事務所宇都宮事務所(現関東農政局栃木農政事務所)調べ。



図-1 ほ場立毛(左: 農林61号、右: タマイズミ)